

北九州市フィジカルA I 共生都市戦略

～ フィジカルAIで、産業を強く、暮らしを豊かに、まちを魅力的に ～

令和8年8月



フィジカルA Iとは

現実世界 × A I × ロボット



製造・物流・災害対応

買い物・移動・家事

賑わい・エンタメ

「頭脳」と「身体」で現場を助け、市民の暮らしに寄りそうA I

「宣言」から「実行」フェーズへ

宣言・ビジョンの提示

国による後押し

具体的戦略実行へ

● 5月25日

● 7月22日

● 7月31日

北九州市フィジカルAI共生都市戦略検討会議（全3回）



フィジカルA I 共生都市宣言



「地域産業クラスター計画」第1弾認定



8月21日（本日）

北九州市
フィジカルA I
共生都市戦略



プロジェクト始動

北九州
2043

次世代まちづくり・投資に向けた戦略（たたき台）
～都市と暮らしを次のステージへ～

次世代まちづくり・投資に向けた戦略（たたき台）

フィジカルA I

エンタメ/カルチャー

アーバンネイチャー

北九州市フィジカルA I 共生都市戦略検討会議

氏名	所属・役職	分野
尾形 哲也	早稲田大学基幹理工学部教授、(一社)AIロボット協会 理事長	アカデミア
岡田 祐之	(株)みらい創造インベストメンツ代表取締役社長	ベンチャーキャピタル
小野 裕和	(株)ドーワテクノス代表取締役	Sier※
楠木 真次	九州経済産業局地域経済部長	行政
佐野 元紀	Telexistence(株)共同創業者CTO、(一社)AIロボット協会 理事	スタートアップ
竹山 将志	9Capital合同会社代表	ベンチャーキャピタル
舘下 繁仁	松本工業(株)代表取締役社長	製造業
中川 友紀子	(株)アールティ代表取締役	ロボットメーカー
原 英則	(株)安川電機執行役員技術開発本部長	ロボットメーカー
安永 卓生	九州工業大学学長	アカデミア
山之口 裕一	日本IBM(株)常務執行役員	コンサルティング

※ロボットやAIなどを組み合わせて、工場などの現場に導入する役割を担う事業者のこと

戦略のビジョン（目指す姿）

目指す姿

【企業】生産性向上と新産業創出、産業集積

【大学・研究機関】研究成果の社会実装と人材育成

【市民】便利で豊かな暮らしの実現

【まち】文化・交流・観光など新たな都市空間を創出

【行政】社会課題を解決し、モデルを世界へ展開

産業だけでなく
市民生活を豊かに
まちを魅力的に

北九州市フィジカルAI共生都市 - 北九州から世界へ -

産業を強く、暮らしを豊かに、まちを魅力的に

産業の強さ

生産性の向上

新産業の創出

産業の集積



暮らしの豊かさ

介護支援

自動配送ロボ

家事支援



まちの魅力

観光地での自動案内

エンタメ

街なかの賑わい



基本戦略（北九州市の勝ち筋）



市民とフィジカルAIが
共生するまち

社会実装を産業集積へつなげる

実装で得たデータを資源に多様な企業や新分野の供給網（サプライチェーン）を集積させ、**フィジカルAI産業クラスター**を形成

社会実装を日本一推進する都市を目指す

産業・市民生活・まちなかへの徹底した導入支援と公共分野の先行実装による「**日本一の社会実装都市**」を形成することにより、**産業力と市民の利便性や豊かさを高め、まちの魅力を高める**



政策パッケージ

① 社会実装・実証
フィジカルAIサンドボックス

② 事業化・企業集積
フィジカルAI社会実装LABO

③ 研究開発・人材育成
匠プロジェクト

④ フィジカルAI
共生都市モデルの形成

4つの政策パッケージを一体的に推進

日本を牽引するフィジカルAI共生都市へ

政策パッケージ

① フィジカルAIサンドボックス(社会実装・実証)

 産業や市民が抱える課題をフィジカルAIで解決

【施策案】

- ・ 製造・物流・港湾・インフラ保守など「産業現場」への実装
- ・ 介護・移動・買い物など「市民生活」や商店街やエキナカなど「まちなか」への実装
- ・ 市役所・公共施設への先行導入、公共調達を活用した市場創出
- ・ 実装フィールドの提供、国家戦略特区を活用した規制緩和

② フィジカルAI社会実装LABO(事業化、企業集積)

 社会実装の成果を事業化につなげるとともに、世界中から企業・スタートアップが集まる拠点を形成

【施策案】

- ・ 社会実装を起点としたスタートアップ創出・成長支援
- ・ ヒューマノイドロボットメーカー等の企業誘致・拠点形成
- ・ 市内企業のAI・ロボティクス分野への新規参入支援
- ・ フィジカルAI関連共同研究・事業化支援

政策パッケージ

③ 匠プロジェクト(研究開発・人材育成)

🔥 北九州学術研究都市の研究力と「匠の技」を融合し、次世代の産業を支える高度人材を育成

【施策案】

- ・ SIer※の高度化支援、AI・ロボティクス人材育成
- ・ 産学官連携による国プロジェクトの獲得、研究開発支援
- ・ 企業や研究者が挑戦しやすいデータ利活用環境の整備

※ロボットやAIなどを組み合わせて、工場などの現場に導入する役割を担う事業者のこと

④ フィジカルAI共生都市モデルの形成

🔥 技術・産業・デジタルインフラと、市民の暮らし・地域社会が調和し、ともに豊かになる都市モデルを構築

【施策案】

- ・ 市民がAIを身近に感じ、使いこなせる環境づくり
- ・ 暮らしを豊かにするAI・ロボティクスの社会実装
- ・ 次世代を担うAI人材・リテラシーの育成
- ・ AI社会を支えるデジタルインフラと地域との共生

推進体制 — 実装フィールドコミッション —

市が主体となって企業による社会実装を徹底的に支援



実装フィールドコミッション



K P I (2030年度末)

実証・社会実装
件数

100
件



導入企業数

100
社



ロボット関連
参入企業数

50
社



スタートアップ
創出

20
社



Slr売上高

500
億円



社会実装から産業集積へ。
北九州から、**未来を創る。**



フィジカルA I 共生都市

人とフィジカルAIが共生するまち、
北九州市。

